

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

西麻植学校
「学力向上実行プラン」

豊かな心と確かな学力をはぐくむ学習活動の創造

学力向上推進員
美馬 和美

委員 湯浅順三（校長）・槇納哲也（教頭）・美馬和美（1年担任）・渡邊航一（2年担任）・山林諭未（3年担任）・森浩子（4年担任）・吉田有里（5年担任）・平野貴志（研修主任・6年担任）・近久美穂（教務主任・特別支援担任）・藤岡直己（特別支援担任）・吉峯力（児童生徒支援）・河野恵美（専科）三木由里（養護教諭）・中村良一（支援員）

校長
湯浅 順三

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、意見交換等、機会を捉えて、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に真面目に取り組み、漢字の読み書きや計算など、基礎・基本の内容のおおよそを身につけている。 ●学習内容の定着に差があり、学力の差が大きい。 ●身につけた知識・技能があまり活用できていない。	・漢字・言葉・計算など基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	・ドリル学習等で漢字・計算の課題を繰り返し行うとともに、ミニテスト等の中間評価により理解度を把握し、改善と対策を図る。 ・学習に安心して取り組めるよう、個別の状況に応じた多様な学習課題や支援の手立て(ヒントカード)を用意する。 ・タブレットの活用により、「個別最適な学び」に導く。			

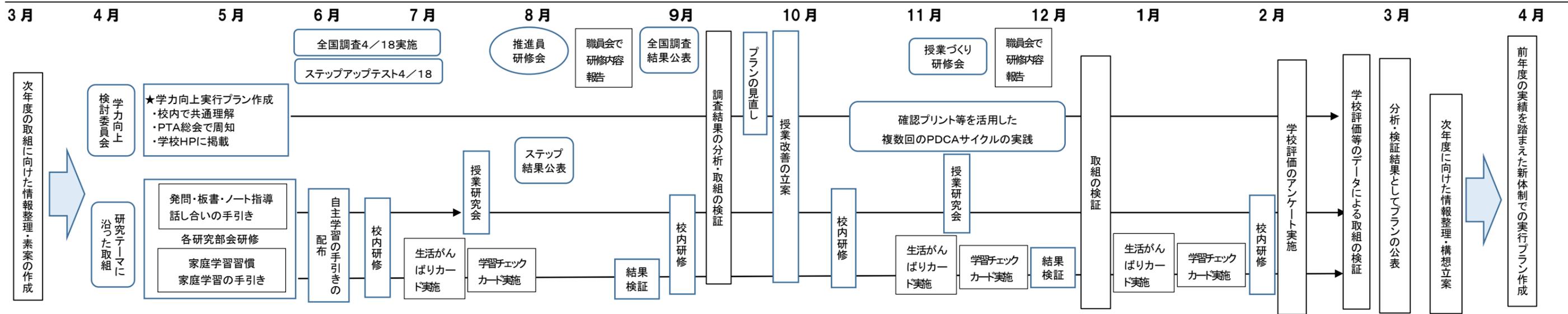
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○目的意識をもって、自分の思いや考えを話したり書いたりする意欲が育ってきている。 ●語彙の広がりや少く、スピーチや作文などの表現力に課題が見られる。	・目的意識や相手意識をもち、相手に伝わるように話したり書いたりすることができる。 ・根拠や理由を明らかにしながら話したり、友達の意見と比較して聞いたりすることで自分の思いや考えを深め、表現することができる。	・目的意識や相手意識をもたせられる言語活動を設定し、思考が深められるような発問・指示の工夫を行う。 ・他者との交流や体験活動により、考えを広げ、相手を意識した表現ができる場を設定する。 ・国語科教科書「ことばのたからばこ」を活用する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題は真面目に取り組むことができる。 ●「もっと知りたい、調べたい」という意欲や自分なりのめあてをもって学習に取り組む児童が少ない。また、意欲はあっても、具体的な学習の仕方が分からない児童がいる。	・これまでの経験をもとに新たな学習課題を自ら見つけ、「もっと知りたい、調べたい」という意欲と目的意識をもち、主体的に学習に取り組むことができる。	・学習したことを自己の課題につなげたり、生活の中で生かしたりできるように「ふりかえり」を充実させる。 ・タブレットを効果的に活用することや導入の工夫により、学習意欲を高める。 ・学びを次時の学習や生活に生かせる場を設定する。			

令和5年度 学力向上ロードマップ



学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかりやすい発問により、生徒の思考を深める授業の実践
- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
---------	----

校長

〇〇学校
「学力向上実行プラン」

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にもまじめに取り組みたりできる生徒が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・生徒の興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。	それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。さらに、身に付けた知識等を用いて課題を解決させる学習活動の場を増やす。	・アンダーラインを入れさせることはできていたが、少し多く引きすぎた。 ・工夫した発問は多くの場面でできたが、その発問に対する反応を予想することが不十分なときがあった。 ・相互の授業参観を多く行うことができた。	身に付けた知識等を表現するために、「書く」活動の機会を多く取り入れる。身に付けた知識等を実際の場面で活用できるよう、主体的・対話的で深い学びのさらなる実現を推進する。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒は多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。	ペア学習やグループ学習の前には個人で考える時間をしっかりと確保する。また、生徒のつづやきを全体で共有し、課題の解決を図る機会を設定する。	・ペア学習やグループ学習の機会については適切に設定できた。 ・ホワイトボードを使用した話し合い活動は多くできたが、活用の場面での言語活動は不十分だった。 ・深い学びにつながる発問については、なかなか上手くはいかなかった。	ペア学習やグループ学習の方法、ホワイトボードの使用等では、学校や学年で統一できるところはするなど、より効果的な実践を行う。授業計画の改善を進め、生徒の活用する力のさらなる育成を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●自分の考えを客観的に捉えたり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にある、ノート指導を徹底する。 ・何を・なぜ・どのように学ぶのが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、記述させる。	生徒のつまづきに対して自らの問題の解決の糸口に気づくような助言を与えたり、振り返りシートについて改善を行う。	・ノートについては、ほとんどの生徒が確実に取ることができていたが、自分の考えを書かせることができなかった。 ・授業のめあてをほぼ、提示できた。 ・振り返りはさせることができたが、記述については、不十分なときもあった。	各教科において育成を目指す資質・能力の育成を図れる授業改善を進めると共に、授業のノートの取り方の更なる改善を図る。

令和3年度 学力向上ロードマップ

